

2012年8月17日

国立がん研究センターと がん情報の普及啓発に向けた包括的連携に関する協定を締結

アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社、日本における代表者・社長: 外池 徹)は、2012年8月23日、独立行政法人国立がん研究センター(理事長: 堀田 知光)と、<がん情報の普及啓発に関する包括連携に関する協定>を締結します。本協定の概要は以下の通りです。

◆ <がん情報の普及啓発に関する包括連携に関する協定>概要

【 目 的 】

国立がん研究センターおよびアフラックが展開しているがん啓発に関する取り組みや双方が有する全国ネットワークを活かし、広く国民に対して共同でがんに関する情報の提供を行い、国民のがんに関する意識の向上を図りながら「がんと向き合い、がんに負けることのない社会」や「がんになっても自分らしい生き方ができる社会」を目指す。

また、それによって全国のがん患者やそのご家族の不安・苦痛の軽減、療養生活の質の向上を実現する。

【主な取り組み】

- ・ 一般市民へのがん啓発事業の実施 (※)
- ・ がん診療連携拠点病院相談支援センターへの支援
- ・ がん啓発ツールの制作

※がんに関する啓発事業として、2012年9月15日(土)～16日(日)に、東京ミッドタウン「アトリウム」にて、『がんを知る展 ～「知る」ことが、あなたを「守る」こと～』を開催予定です。

これは、国立がん研究センター創立50周年記念と連動したイベントで、同時に、今般の国立がん研究センター・アフラック協定締結記念イベントとして開催されるものです。

国立がん研究センターは、1962年に日本のがん医療の拠点である国立の機関「国立がんセンター」として設立されました。同センターは、全国のがん患者に対して最新かつ最善の医療を提供するとともに、全国のがん診療連携拠点病院(397ヵ所/2012年8月現在)への支援などを含めた、専門医療従事者養成の中心的役割を担っています。2010年以降は独立行政法人として、国と一体となって日本全体のがん医療とがん研究を牽引しています。

当社は、がん保険のリーディングカンパニーとして、がんになっても安心できる社会の実現に向けて、今後がんに関する啓発活動を積極的に推進してまいります。